

地球環境保全に活かそう、わが社の環境対応塗料技術



取締役 常務執行役員

鈴木 勇

人類が自然環境を資本として利用しながらより良い生活を求めたために発生したとされている、地球温暖化、大気汚染、オゾンホール拡大などの環境変化が顕著になったことで、地球環境保護の必要性が叫ばれ、世界各地で環境保全のための規制が強化されています。

環境保護への取り組みで先行する欧州では、使用済み自動車に係わる「ELV指令」や電気・電子機器に係わる「WEEE指令」、「RoHS指令」などの特定有害物質使用規制により、環境保全対策のレベルアップを図っています。また、これに加えて、大幅に化学物質管理に関する規制を強化するEU新化学品規制REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restrictions of Chemicals)が検討されています。

国内においても、「PRTR法」や「グリーン購入法」、「改正大気汚染防止法」、更には廃棄物・リサイクル対策を総合的かつ計画的に推進する「循環型社会形成推進基本法」および容器包装、家電、食品、建設、自動車などを対象にした個別リサイクル法等が順次制定・整備されてきました。しかし一方で、現在日本は地球温暖化防止のため温室効果ガス削減目標を定めて発効した京都議定書の会議議長国として、国際的にその成否の矢面に立っています。

当社は、国内外の環境負荷物質削減を求める規制や法律に対応する塗料の開発にいち早く取り組み、多くの環境配慮型塗料を市場に提供してまいりました。塗料の生産から塗装、塗膜の寿命までのサイクルの中で、エネルギー消費量(炭酸ガス発生量)の少ない塗料、即ち、水性塗料はもとより、低温硬化、省工程、高耐久化(塗膜の長寿命化)等の機能を具備した塗料や、エネルギー消費を抑制する遮熱塗料等の当社環境配慮形塗料は国内市場で高い評価を得ていますが、依然として進行する地球環境の悪化に歯止めをかけるためにも、環境配慮形塗料の更なる高度化、即ち、トータル消費エネルギーのより少ない塗料、大気汚染防止(VOC削減)塗料の開発力強化とスピードアップが求められており、当社はこれに応えなければなりません。

そして地球環境保護のための国際協力の見地から、今後これらの環境配慮形塗料を、中国をはじめとする海外市場へ積極投入することで、当社はグローバルな環境保全に貢献する企業を目指すべきでありましょう。

DNTコーティング技報では、最新の環境配慮形塗料や社会資本構造物の保護・長寿命化に貢献する防食塗料など、当社の独自技術と商品の一端を紹介しておりますが、今回お届けする第7号も日頃ご愛顧いただいておりますユーザーの皆様をはじめ塗料・塗装に携わられている方々に、些かでもお役に立てば幸いです。

平成19年10月